

## 研究課題：

当院における胃食道逆流症の術後再発リスク因子の検討

### 1. 研究の目的

胃食道逆流症は、様々な原因により、胃酸とともに胃の中に入ったミルクや食べ物が食道に逆流して様々な症状を起こすことを言います。逆流により嘔吐などの消化器症状や、咳・肺炎・無呼吸発作などの呼吸器症状が引き起こされ、生活指導や薬物療法で症状が改善しない場合は、外科的治療の対象となります。手術は腹腔鏡による噴門形成術が行われることが多いですが、他の疾患や術後経過によって、胃食道逆流の再発のリスクが高くなると言われています。何が再発のリスクになるのかを検討することは、今後の同疾患の治療成績を向上させるために必要です。

### 2. 研究の方法

1997年7月から2021年12月までに胃食道逆流症と診断され、腹腔鏡下噴門形成術を受けた患者様が対象となります。診療録から、生まれたときの状態や体重、既往歴や併存疾患、手術時期や手術内容、および術後の経過と再発を含めた合併症についての情報を調べまとめます。

### 3. 研究期間

2024年7月（倫理委員会で承認を得られた日）から2026年3月31日まで。

### 4. 研究に用いる資料・情報の種類

診療録から、生まれたときの状態や体重、既往歴や併存疾患、手術時期や手術内容、および術後の経過と再発を含めた合併症についての情報を調べまとめます。画像（個人情報は一切含まない）が論文内に掲載されることがあります。

### 5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

## 6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：外科 科長 川嶋 寛

研究分担者：外科 医員 小川祥子

## 7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2024年10月31日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構

埼玉県立小児医療センター

医事担当（代表 048-601-2200）